

第2章 札幌市の現状

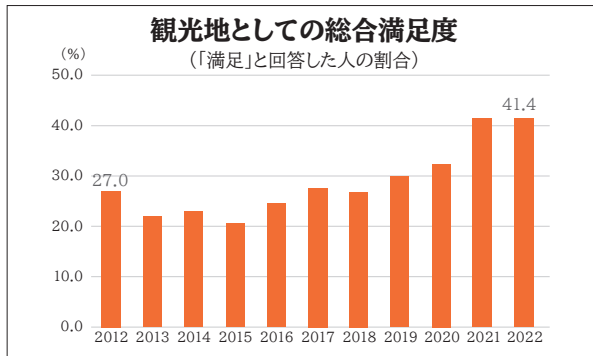
1 産業振興ビジョン改定版(前ビジョン)の実施状況

1 産業振興ビジョン改定版の主な取組

重点分野

■ 観光分野

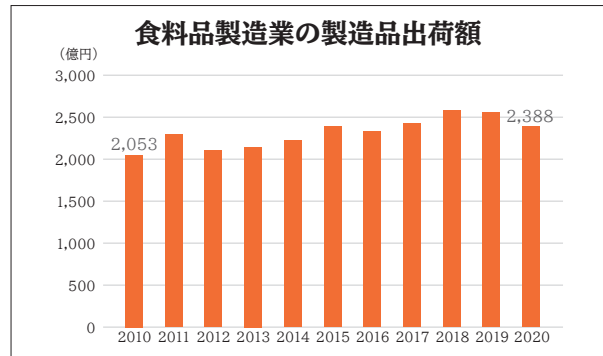
観光コンテンツの充実、国内外への観光誘致推進、観光客の受入環境の充実、MICE誘致の推進など



資料:来札幌観光客満足度調査(札幌市)

■ 食分野

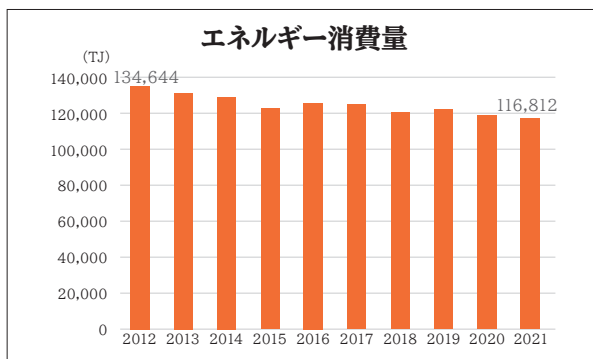
食ブランドを通じた観光振興、国内外への販路拡大推進、都市農業の振興など



資料:工業統計調査(経済産業省)、経済センサス(総務省・経済産業省)

■ 環境(エネルギー)分野

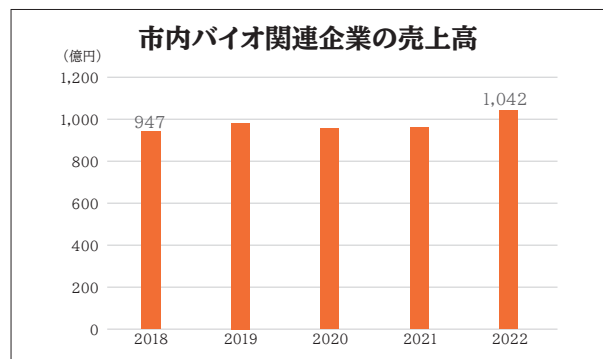
環境エネルギーに関する技術開発支援、高断熱・高気密住宅の普及など



資料:「札幌市気候変動対策行動計画」進行管理報告書(2021年速報値・2018年確定値-資料編-) (札幌市)

■ 健康福祉・医療分野

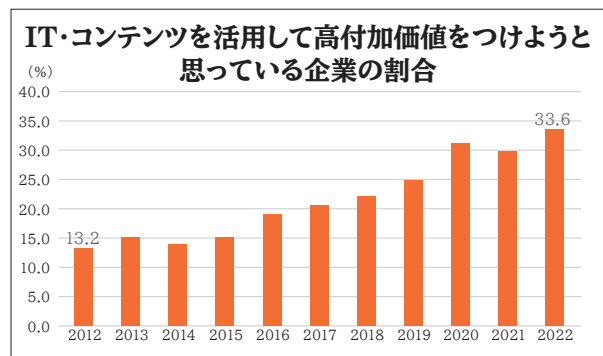
バイオテクノロジーを生かした研究開発支援、政令指定都市初の官民連携地域ファンドの設立など



資料:札幌市

■ IT・クリエイティブ分野

IT技術の普及啓発やビジネス創出支援、札幌フィルムコミッションの運営を通じた映像産業の振興など

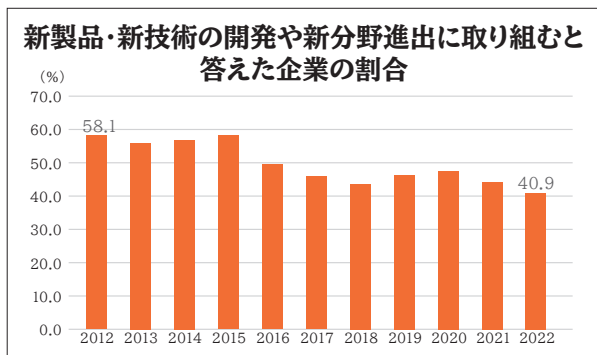


資料:札幌市企業経営動向調査(札幌市)

横断的戦略

■ 中小・小規模企業への支援

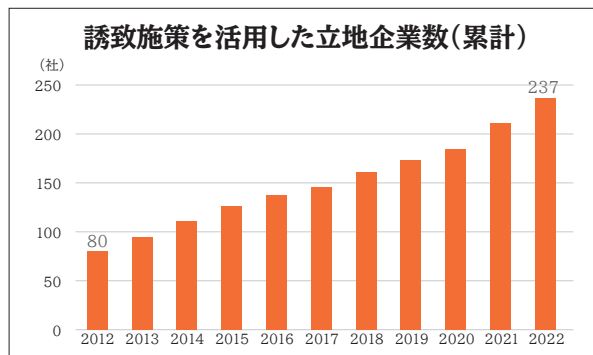
経営相談や円滑な資金調達支援、新製品・新サービス等の開発支援、商店街活性化の支援、企業の海外展開の促進など



資料:札幌市企業経営動向調査(札幌市)

■ 新たな企業の創出

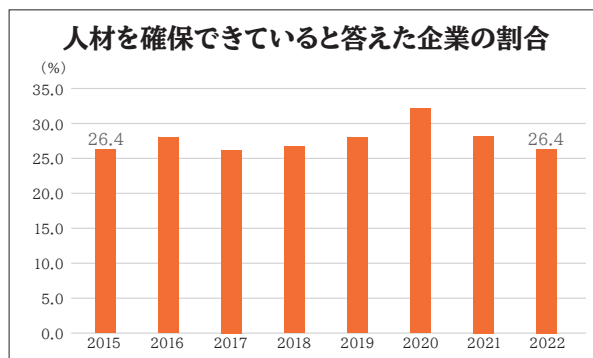
企業立地の促進、立地環境の魅力向上、創業者向けの細やかな支援、創業環境の整備など



資料:札幌市

■ 人材への支援

中小・小規模企業の採用力や人材育成力の強化、女性や高齢者の就労促進、UIJターンの推進など



資料:札幌市企業経営動向調査(札幌市)

2 産業振興ビジョン改定版の数値目標達成状況

数値目標の項目	当初値 (2014年)	目標値 (2021年)	実績値 (2021年)	参考値 (2016年)
市内従業者数	858,000人	900,000人	872,779人	838,911人
市内企業の売上高	15兆7,794億円	16兆8,500億円	21兆4,257億円	21兆1,623億円

注:経済センサス(総務省・経済産業省)に基づく設定

これまでの様々な取組の結果、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響はあるものの、市内企業の売上高は目標値を達成しました。一方で、生産年齢人口の減少を主な要因として市内従業者数の伸びは鈍化し、目標値を下回りました。

今後も生産年齢人口減少が見込まれる札幌市において、持続的に発展していくためには多様な人材の活躍による担い手の確保に加え、生産性向上による稼ぐ力の底上げが求められます。

2

札幌市の特徴

1 札幌市の魅力

■ 地域特性

世界でも類をみない自然と都市機能が共存する特徴を持った北の拠点都市です。

■ 豊かな食

札幌市には新鮮でおいしい北海道の「食」が多く集まり、国内外の人々を魅了しています。

■ 充実した観光資源

北海道は、雄大な自然環境や豊富な食などを有しており、札幌市では年間を通じて多彩なイベントが開催され、観光客から魅力的なまちとして評価されています。

■ 住みやすいまち

札幌圏は関東圏・近畿圏と比べて通勤・通学時間が短いほか、賃貸住宅の家賃やオフィス賃料が他都市と比べても低く、ゆとりある都市生活が可能です。

■ 魅力あるまちのブランドイメージ

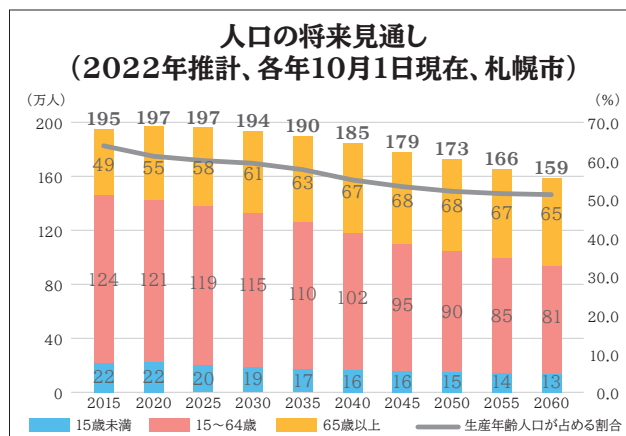
民間調査機関による市区町村魅力度ランキングで1位になるなど、全国的に高い評価を受けています。

2 人口の動向

■ 人口の将来見通し

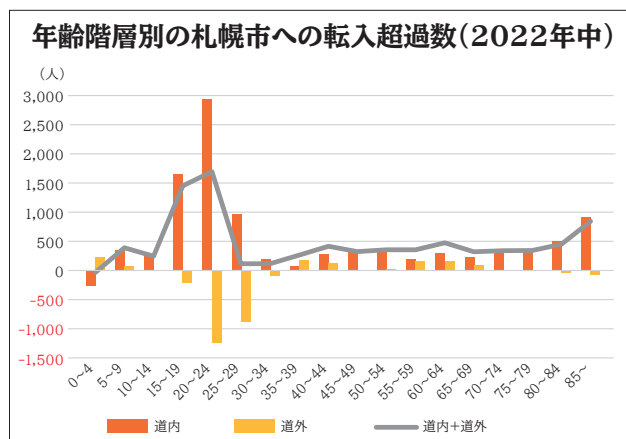
札幌市の人口は、令和3年(2021年)に減少となり、令和42年(2060年)までに38万人減少していくことが予測されます。

今後、少子高齢化が更に進行すると、総人口に対する生産年齢人口の比率は令和2年(2020年)の約6割から令和42年(2060年)には約5割まで低下することが見込まれています。



■ 転出入の状況

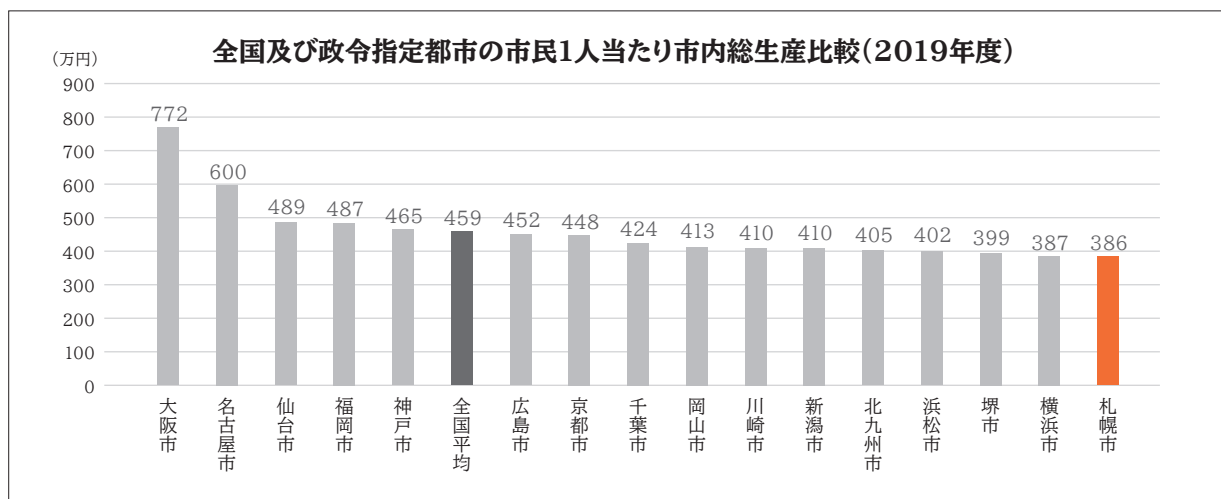
札幌市の転出入の状況をみると、対道内間では、ほとんどの年代で転入超過となっており、特に、15歳から24歳の年代が最も多く、一方、対道外間においては、特に、20歳から29歳の年代で転出超過が多い状況となっています。



3 経済の動向

■ 市内総生産

札幌市の市民1人当たりの市内総生産額をみると、令和元年度(2019年度)で386万円となっており、全国平均(459万円)を大きく下回っているほか、他の政令指定都市と比較しても低い水準にあります。



資料:県民経済計算(内閣府)

※さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は県民経済計算を公表していない。

豊かな食や充実した観光資源等の多くの魅力をもつ札幌市ですが、令和3年(2021年)から人口減少となり、今後ますます生産年齢人口の減少が見込まれるなか、若年層の道外流出に歯止めがかかっていない状況です。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、市内総生産の減少が見込まれているほか、一人当たりの市内総生産が他の政令指定都市と比較して低い水準にあります。

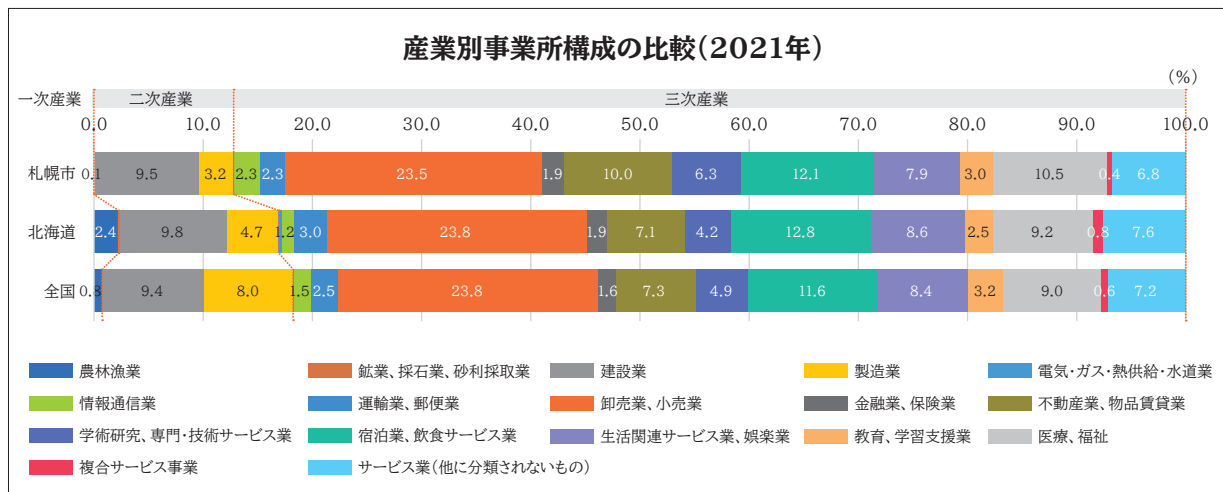
3

札幌市の産業等の現状

1 産業の動向

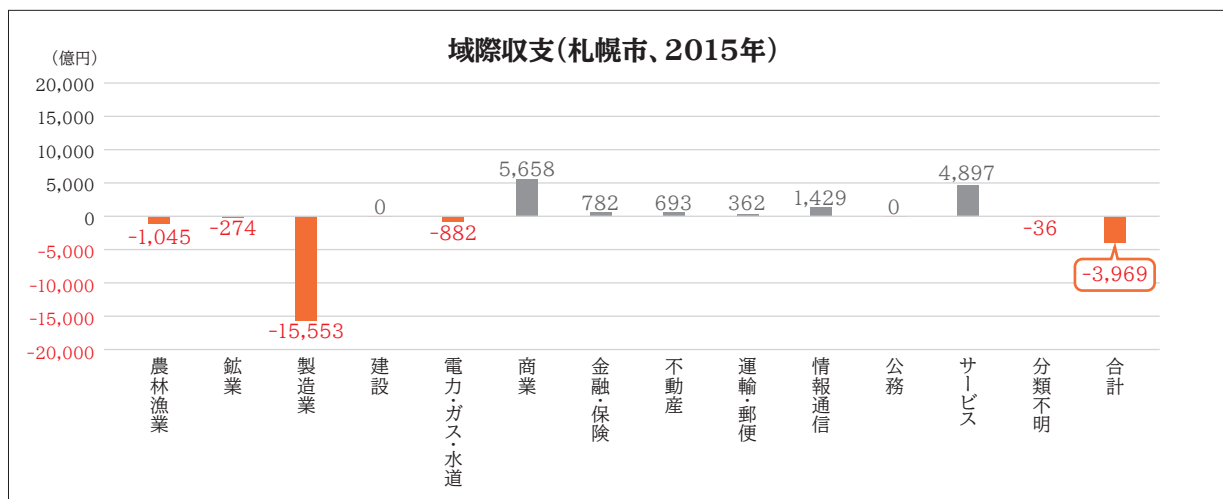
■ 産業構造

札幌市の産業構造は、全国平均と比べて第1次産業と第2次産業の割合が低く、第3次産業の割合が高くなっています。業種別でみると事業所数、従業者数ともに、卸売業・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業が多く、この3業種で札幌市内の事業所数、従業者数の半数近くを占めています。



■ 域際収支

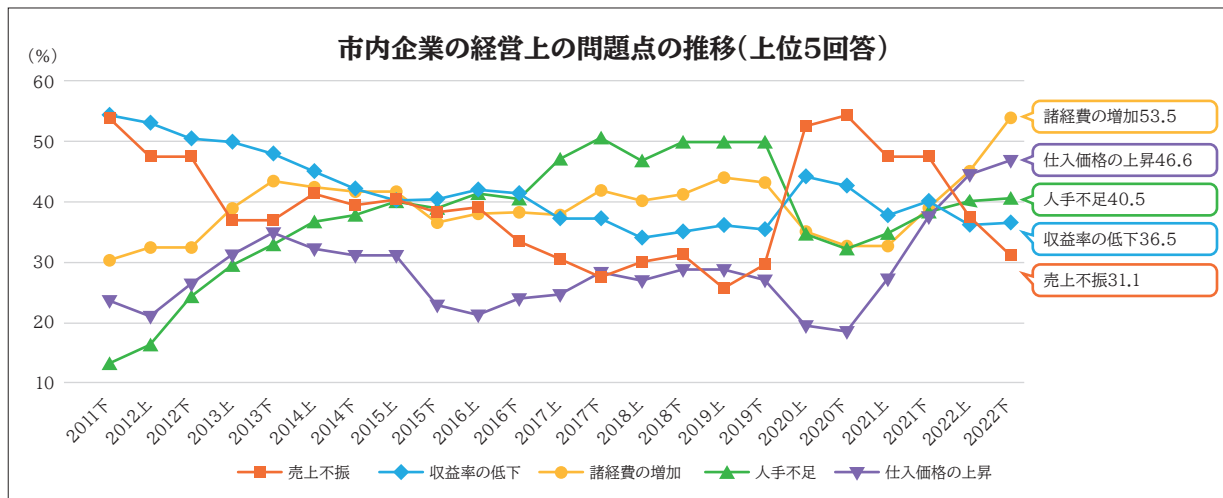
札幌市の域際収支は、業種別にみると商業やサービス業の黒字額が大きい一方、製造業の赤字額が大きく、総額で3,969億円の赤字となっています。



2 企業活動の動向

■ 市内企業の経営上の問題点

市内企業の経営上の問題点は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に加え、令和3年度(2021年度)からは国際情勢の変化等による物価高騰等が始まり、「諸経費の増加」「仕入価格の上昇」「人手不足」と回答する企業の割合が増加しています。

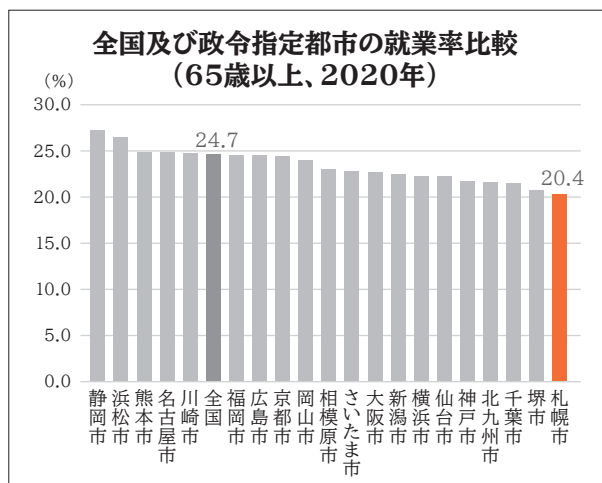


資料:札幌市企業経営動向調査(札幌市)

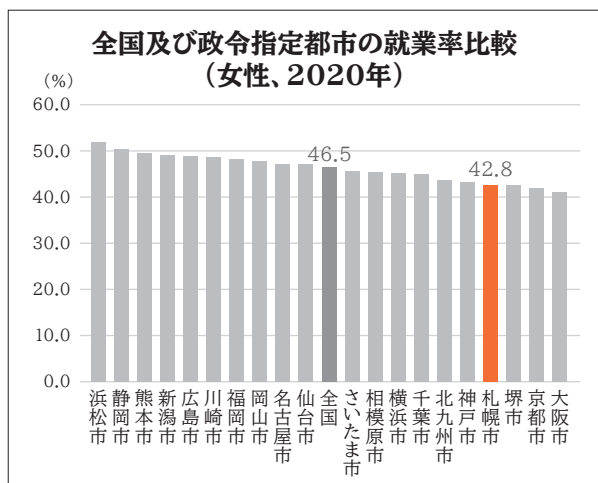
3 雇用・労働の動向

■ 女性と高齢者の就業率

就業率を他の政令指定都市と比較すると、65歳以上の高齢者では最下位となっており、女性も低い水準となっています。



資料:国勢調査(総務省)



資料:国勢調査(総務省)

産業構造において大きな割合を占める第3次産業によって地域外から所得が流入していますが、それ以上に第1次、第2次産業において移輸入に依存していることで流出している所得が大きくなり、札幌市の域際収支総額は赤字となっています。

また、市内企業の99%以上を中小企業が占めるなか、直近では物価の高騰などの影響により諸経費の増加や仕入価格の上昇が経営上の問題点として上位に挙げられています。

加えて、多くの企業において人手不足の課題感が継続、かつ深刻化しているなか、労働者側からみると、就業率は減少傾向にあり、高齢者と女性の就業率が低い状況にあります。

4

札幌市の産業を取り巻く環境の変化

1 世界、国内における社会経済情勢

- 新型コロナウイルス感染症を契機とした社会変容
- デジタル化の進展
- 脱炭素化の実現
- SDGs(持続可能な開発目標)の実現、ESG投資への注目の高まり
- 東京一極集中からの地方分散
- 不安定な世界情勢
- 2025年日本国際博覧会の開催

世界、国内における社会経済情勢は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会変容はもちろんのこと、デジタル化の進展、脱炭素化やSDGsの実現に向けた動きが加速する一方で、国際情勢の悪化等に伴う物価の高騰等により経済の不確実性が高まりを見せています。

2 札幌市における社会経済情勢

- 北海道新幹線の札幌延伸
- 都心の再開発
- スタートアップ・エコシステム推進拠点都市の認定
- GX実現に向けた産学官金における連携体制の構築
- 道内における次世代半導体製造拠点の整備
- 増加する自然災害等の有事

札幌市における社会経済情勢は、北海道新幹線の札幌延伸や都心の再開発など、まちづくりにおける大きな転機を控えています。

加えて、GX実現に向けた産学官金における連携体制の構築や道内における次世代半導体製造拠点の整備といった、札幌・北海道に社会経済システム全体の変革となりうる動きが起こっています。